

この号の内容

- ① 岡山県地域医療支援センターの活動
- ② 第16回日本医療マネジメント学会学術集会印象記
- ③ 先輩からのメッセージ
- ④ 地域医療とキャリア形成支援
～日本プライマリ・ケア連合学会男女共同参画委員会の活動を通じて～
- ⑤ メディカルカフェ in かわさき「女性医師を応援します!」開催報告



岡山県医師会

URL <http://www.okayama.med.or.jp/index.html>E-mail oma@po.okayama.med.or.jp

岡山県地域医療支援センターの活動


 岡山県地域医療支援センター長/
岡山県医師会副会長 糸島達也

岡山県の人口当たりの医師数は全国平均を上回っていますが、県北部や県境部などでは全国平均を下回っており、地域による偏在がみられます。このような医師の地域偏在を解消することを目的として、2012年2月、県内の医師不足の状況を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と医師不足地域のうち、適当と思われる病院への支援を行う「岡山県地域医療支援センター」が開設され、現在、ほぼ3年が経過しています。

どのような地域においても通用する総合的な診療能力を有する医師を養成するため、岡山大学地域医療人材育成講座と協力して、岡山大学及び広島大学の医学部医学科の地域枠学生の養成を行っています。

この地域枠学生の1期生は、今年度卒業を迎え、来年度から初期臨床研修医として、県内の初期臨床研修病院に赴任することになります。研修病院での2年間の研修後、地域枠卒業医師が、地域医療で活躍できるよう、卒業前の教育を担う地域医療人材育成講座と卒業後の支援を行う地域医療支援センターが毎月1回集まって、支援についての検討を行っています。

2014年7月、地域枠を卒業する医師が実際に地域で勤務を行う際の病院を客観的に選定するための条件づけを考える「地域医療を担う医師を地域で育てるためのワークショップ」を県内の医療関係者の先生方にお集まりいただき、開催しました。

このような取り組みを行いながら、初期臨床研修を修了した地域枠卒業医師が、地域で元気に、はつらつと活躍が出来る様な準備を進めております。

また、岡山大学及び広島大学の地域枠学生と自治医科大学生が一堂に会し、大学や学年を越えた学生同士の交流が図られるとともに、地域のキーパーソンや住民、先輩医師達から直接、実情を聞く合同セミナーも年1回、開催しています。今年は、新見で開催し、哲西町診療所の見学を行うとともに、地元市長や地域医療に貢献している医師の講話を聞くことで、地域で必要とされる医療等について、より深く考えることができました。

岡山県医療環境の特徴である円滑な連携体制の充実に向け、当センター、大学、県内医療機関、医師会、行政、NPO法人岡山医師研修支援機構等とこれからも取り組んでいきたいと考えています。

なお、当センターの取り組みについては、以下のホームページやフェイスブックで積極的に公開しております。

センターでの調査や分析等のご要望がございましたら、ホームページ等を通じ、当センターまでご連絡ください。

センターホームページ：<http://chiikiiryuokayama.wix.com/centerokayama>

センターフェイスブック：<https://www.facebook.com/chiikiiryu33>



(地域医療を担う医師を地域で育てるためのワークショップ：2014.7)



(地域枠学生・自治医科大学生合同セミナー in 新見：2014.8)

ミニレクチャー

第16回日本医療マネジメント学会学術集会印象記

国立病院機構岡山市立金川病院 院長 大森信彦先生

岡山県医師会会員の皆様には、平素より大変お世話になっております。このたびは、ミニレクチャーへの投稿の機会を与えていただきましてありがとうございます。本稿では、本年6月、国立病院機構岡山医療センター名誉院長である青山興司先生を会長に開催されました、『第16回日本医療マネジメント学会学術総会』について報告いたします。私は事務局として企画段階から関わりましたので、本稿を通して、会員の皆様はこの学会の魅力をお伝えすることができれば幸いに存じます。

① はじめに：『日本医療マネジメント学会』をご存知ですか？

1990年代後半、クリティカルパス（以下クリパス）を本邦に導入した先生方によるクリティカルパス研究会の活動を基盤にして設立されたのが本学会です。活動範囲はクリパスをはじめ、医療経営、医療安全、医療連携、電子化等々、医療の現場における各種の課題の研究、提案、各種講習会の開催におよび、常に現行医療制度の一步先を見据えた活動を展開しています。現在約7,600人の学会員を擁し、その6割が看護師、2割が医師、残り2割が事務をはじめとしたすべての医療関係職種で構成され、毎年一回開催される学術総会は多種多様な演題と参加者で活気に満ちています。各都道府県に支部が置かれていますが、岡山県支部は、青山先生を理事長として、2006年に県下の公的10病院を中心に創設され、年2回開催される県支部集会は、参加者数300人を超えるまでに成長しています。

② 第16回学術総会について

2014年6月13、14日、『第16回学術総会』が岡山駅周辺の複数施設を会場に開催されました。青山会長の行動哲学である『楽しく働くために』をメインテーマとし、岡山県の魅力や高い医療・介護水準を全国に発信するだけでなく、参加者への「おもてなしの心」にも徹底配慮しました。プログラムには、基調講演、会長講演のほか、招待講演3題、特別講演3題、教育講演2題、その他、特別企画、24題のシンポジウム・フリートークを盛り込みました。このうち16題は岡山県支部を構成する全病院が分担企画しましたが、形式も各セッションで自由裁量としたことにより、個性豊かな「岡山力の結集」を達成することができたと思います。一般演題は1,034題（口演；682題、ポスター；325題、クリティカルパス展示；27題）が採用となりましたが、カテゴリ一別では地域連携が202演題ともっとも多く、197演題の医療安全がそれに続きました。会期中の参加者数は過去最多の4,207名にのぼり、連日非常に活気がありました。招待講演は、作家の藤原正彦先生による『日本のこれから』、ノートルダム清心学園理事の渡辺和子先生による『置かれたところで咲く』、厚生労働省事務次官の村木厚子先生による『仕事と家庭を考える』の3題でしたが、いずれも自らの

体験を交えた、力強く、ウィットにとんだご講演で、立ち見が出るほどの熱気に包まれていました。特別講演では、東大教授の辻哲夫先生に、高齢者時代を迎える日本の医療・福祉・介護・保健のあり方を示していただきました。また、今回は岡山に2施設あるハンセン病施設の現状と過去への思いを、医療関係者に認知・共有してもらおう事を目的として、邑久光明園の畑野研太郎名誉園長先生と入所者自治会副会長山本英郎氏に『人権を守る医療を目指して—隔離から解放へ』という、心を揺さぶられる感動的なお話をいただきました。

この他、本学会の目玉企画の一つである、全国トップレベルの病院のトップマネジメントによる『楽しく働くためのトップマネジメント』と題したシンポジウム形式のセッションをはじめ、従来の概念にとらわれない多数の企画のおかげで、学会期間中すべての会場がほぼ満席となっていたことは、開催者としてありがたい限りでした。

③ この学会を経験しての感想

この学会の企画、運営を経験して改めて感じたことは、「岡山力の凄さ」に尽きます。一見、議論好きでまとまりがないように見える岡山県人ですが、青山会長の号令のもとに発揮された「ここ一番の凝集力と行動力」は、岡山県の医療人レベルの高さをそのまま反映しているものであったことは間違いありません。2025年問題克服に向けて、この「岡山力」の結集に、日本医療マネジメント学会岡山県支部が少しでも寄与できるよう、これからも活発に活動してまいりたいと思います。皆様のご加入をお待ちしています。



先輩からのメッセージ

「これから医師となる皆様へ」

こんにちは。川崎医科大学附属川崎病院研修医一年目の廣瀬一樹と申します。私は医師になりまだ半年に過ぎません。日々新しい出来事の繰り返して、苦しい時もありますが、温かい目で見守って下さる先生方の御指導を受け、充実した研修生活を送っています。今回、私の現在までの研修生活の様子や私自身が肌で感じたことを率直にお伝えします。

四月に医師としての仕事が始まりました。最初の一か月間は、病棟の仕事や電子カルテの使い方に慣れるのに精一杯でした。四か月目から二か月間は外科を回り、指示通りに動くだけでなく、自分から学ぶ姿勢が大事だということを教えていただきました。それからは検査や手術にできるだけ参加し、多くの手技を経験させていただきました。この頃より積極的な態度が身についてきたように思います。現在は消化器内科を回っていますが、自分から進んで内視鏡検査に参加し、様々な手技を経験させていただいています。しかし、積極性が災いして指導医からイエローカードを出されることもあり、日々奮闘中です。

川崎医科大学附属川崎病院 廣瀬一樹先生

これまでの私の短い経験の中から、皆さんへメッセージを送りたいと思います。①最初の時期は仕事に慣れることを念頭に置き、あれもこれもしようとは思わない。②何ができるかを考えながら順序付けて仕事をする。③仕事に慣れてきたら何事にも積極的に参加する。様々な科を二年間かけて回る機会など一生ない、この瞬間を逃したら二度と経験できない、という思いをもって働くのが良いと強く思います。研修生活は毎日何がおこるか分からない、特に川崎病院では、「医療は患者のためにあり、全ての患者に深い人間愛を持ち24時間いつでも診療を行う」ことをモットーとしているので、様々な患者さんに出会い、多くの手技を経験できます。また、当院のメディカルスタッフは皆優しく丁寧に接してくれますので、温かい人間関係を築くことができます。研修医半年目の私などにはもったいないくらい良い環境で仕事できています。

これからも当院の環境に甘えず、積極的な姿勢を崩さず、日々精進していきたいと思っています。

地域医療とキャリア形成支援 ～日本プライマリ・ケア連合学会 男女共同参画委員会の活動を通じて～

津山ファミリークリニック 村田 亜紀子 先生

私は、平成17年に九州大学を卒業し、初期研修後、3年目から北海道の地方都市・郡部（農村、離島、山間部）の診療所を主とした家庭医療後期研修を受け、平成22年に家庭医療専門医を取得しました。私生活では医師である夫との間に3歳の娘がおり、子育て真っ最中の当事者としてプライマリ・ケア連合学会（以下JPCA）の男女共同参画委員会の活動に携わっています。JPCAの現状となぜ私がキャリア形成支援に関わるようになったか、そして今後目指すものについてご紹介します。

旧日本プライマリ・ケア学会、旧日本家庭医療学会、旧日本総合診療医学会の3学会が平成22年4月に合併して誕生したJPCAは、比較的若い学会です。平成26年4月末現在、医師会員9,893名中20-30代が2,851名（うち女性703名）と若い世代が多く、若手医師が学会の活動（委員会・プロジェクト等）へ積極的に登用されています。私は学生の頃から学会主催の「学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー」の運営に携わり、家庭医を目指すようになりました。

キャリア形成支援の重要性を認識するようになったのは、私自身が「仕事か子どもか」の二者択一を迫られる経験をしたのがきっかけでした。後期研修中には指導医から「研修中に妊娠はしない方がよい」と釘を刺され、後期研修修了後には新たな職場へ移った後予想外に早い妊娠を経験しました。

いざ妊娠すると、体調の変化から疲れやすくなり今まで普通にできていたことができなくなり、日々変わる身体への不安や仕事がしたくてもできない葛藤に加え、長期的なキャリアが考えられなくなり非常に不安を感じました。幸い悪阻も軽く切迫早産等も起こらなかったため産休入りまで当直もどうにかこなすことができましたが、当直や長時間労働で疲弊する同僚が多い中、無理ができない自分に罪悪感を感じる日々でした。

4カ月の育児休業終了後は短時間勤務で段階的復帰の予定でしたが、復帰2週間前にフルタイム週5日勤務の条件変更を提示され、核家族で親族の支援がない状況の中、退職せざるを得なくなりました。指導医としてこれからという時期であり悔しさを感じるとともに、女性医師が育児休業や時短勤務などの制度を利用できる環境の整備は実質的にはまだまだ進んでいない現状を痛感しました。

無職期間中は様々な勉強会への参加や「若手医師のための家庭医療学冬期セミナー」の運営にスタッフとして携わるなど自己のアイデンティティを保つため模索を重ね、医療・社会とのつながりを保ち続けました。そんな中セミナーの企画・運営で、託児所運営・キャリア支援企画に主体的に関わるようになりました。この活動がJPCAの男女共同参画委員会（旧女性会員支援委員会）の委員長の目に留まり、委員として抜擢していただきました。

現在は委員会の中で、託児所を設置する対象の拡大（セミナー・指導医講習会等）や学術大会での定例企画開催（女性医師の離職防止に関するシンポジウムや交流の場づくり）に取り組み、女性が生涯学習の場に参加するためのインフラ整備や女性医師に関する問題の報知活動を行うだけでなく、現状把握のための研究等に取り組むなど活動を拡げています。

一言で男女共同参画といっても活動は様々で、実際に現場で困っている当事者が関わっているものは多くありません。また医師のキャリアに関する調査や研究も内容は玉石混交です。研究の質を見極め必要な研究があれば自ら研究を行うつつ、当事者だからこそできる、エビデンスに基づいた確かなキャリア形成支援を展開したいと私は考え、今年から岡山大学医歯薬学研究所疫学・衛生学分野の博士課程に進学しました。一科学者として明確な根拠を以て、性別に関わらず地域の医師がやりがいをもって医療に携われるような道を切り開くことを目標に、男女共同参画委員会での活動を進めていく所存です。

JPCA男女共同参画委員会活動の詳細については平成26年12月よりJPCA学会誌にて定期掲載を予定しており、ホームページ（<https://www.jstgate.jp/browse/generalist/-char/ja/>）にて無料で公開しておりますのでご覧いただけますと幸いです。

メディカルカフェ in かわさき 「女性医師を応援します！」開催報告

川崎医科大学学長補佐/
WLBワーキンググループ委員長(病理学2) 森谷 卓也 先生

川崎医科大学では、平成25年8月に「医師のワークライフバランス支援のためのワーキンググループ」を立ち上げました。目的は医師の卒後ワークライフバランスに関する実態を調査すること、ワークライフバランス支援に関する講演会・勉強会を企画すること、女性医師のキャリアアップ支援のための仕組み作りについて検討すること、在学生に対し、卒後の進路を考えるための資料を提供し、ワークライフバランスに関する意識付けを行うこと、そして最終的に川崎医科大学独自のワークライフバランスおよび女性医師支援のためのシステムを構築すること、にあります。事務局、オブザーバーを含め16名の人数構成のグループで、学校法人川崎学園や附属病院のワークライフバランスのグループ、学園内の施設（子育て支援センター、臨床教育研修センター、同窓会）とも連携し、特に女性医師のキャリアに関する取り組みを開始しました。最初に、他学の様子を勉強させていただき目的で、長崎大学病院メディカルワークライフバランスセンターの伊東昌子教授をお迎えして講演会を開催しました。その後は日本医師会主催の講習会等への参加、附属病院でのレジデントセミナー（育児をしている女性医師による講話）、大学1年生のグループ演習に男女共同参画の話題を取り入れていただくなどの活動を行ってきました。この間、岡山県医師会様から様々なイベントのご案内や会議へのお誘いをいただき、少しずつではありますが勉強させていただいております。この場をお借りしてご関係の皆様には厚く御礼を申し上げます。

この度、9月4日（木）夕刻より本学校舎棟8階ラウンジで、メディカルカフェ in かわさきが開催されました。この会は、岡山県医師会が主催するDoctor's career café in OKAYAMA（医学生、研修医等をサポートするための会）のイベントとして、本学で初めて開催されたものです（企画運営：医科大学、共催：日本医師会、後援：医科大学同窓会）。当日は福永学長、園尾病院長も参加し、研修医、学生、教職員、学外からも医師会の先生方など37名の参加がありました。最初に本学の卒業生でもある岡山県医師会理事の神崎寛子先生から「医師として生き生き働こう」の講話があり、その後は軽食をとりながらテーブルに分かれて、1時間程度の自由懇談となりました。事後アンケートでは、神崎先生のお話がわかりやすく、支援制度などを知って少し安心した（学生）、普段話せない先生と話せてよかった（学生）、学生と話ができたのは有意義だった（医師会の先生）、もっといろいろな体験談を聞きたい、男性の話も聞きたい（多数）などの意見がありました。今後も、学内外から気軽に参加していただけるイベントを定期的に開催したいと考えています。



第15回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

「第7回 D+Muscat」

平成26年11月15日 ⊕ 無事終了いたしました。

■ Session 1

「足・爪病変を診療するための皮膚科医の役割
— 糖尿病性壊疽の治療戦略を含む —

国立大学法人 東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科皮膚科学分野 講師 高山かおる 先生

■ Session 2

「D+Muscat Discussion」 質疑応答

座長：岡山済生会総合病院皮膚科 医長 吉富 恵美 先生



第16回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

第11回岡山ビジョンナ会講演会

● 日時：平成27年1月10日 ⊕ 17:00～19:00

● 場所：ホテルグランヴィア岡山 4階 フェニックス

● プログラム：

■ 特別講演 I

「感染症科専門医としてのキャリア形成と国際医学部構想」

筑波大学医学医療系教授・
筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・
水戸協同病院グローバルヘルスセンター感染症科 矢野 晴美 先生

■ 特別講演 II

① 「眼不定愁訴の新視点」

② 「明治の女性医師たちの夢と現代」

済安堂 井上眼科病院 名誉院長 若倉 雅登 先生

第17回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

メディカルカフェ in かわさき 「女性医師を応援します！」パート2

● 日時：平成27年1月15日 ⊕ 18:20～19:30
(最長20時まで)

● 場所：川崎医科大学校舎棟 8階ラウンジ

● プログラム：

1) 話題提供 (30分) 川崎医大 チーフレジデント 窪田 寿子 先生
川崎医大 准教授 塩谷 昭子 先生

2) 自由懇談 (50分) 4-5人掛けのテーブルごとに

開業医・勤務医・研修医・学生の皆さん、
一緒に楽しくお茶会しませんか？
お子様同伴・男性のご参加も歓迎します。

お子様の託児支援について

岡山県医師会女性医師復職支援事業&岡山県女性医師 キャリアセンター事業(MUSCATプロジェクト)

岡山県医師会および岡山大学医療人キャリアセンター MUSCAT
では子育て中の医師がキャリアアップのために学会、セミナー等で
研鑽する機会を増やすため、H26年10月より託児支援事業を協働し
て行うこととなりました。それぞれの託児サービスの内容をご確認
いただき、ご利用しやすい支援事業をご活用ください。

岡山大学(鹿田キャンパス)で
預かって欲しい

平日の日中(8:30～17:15)
に預かって欲しい

岡山駅付近で
預かって欲しい

土・日・祝、平日夕方など
MUSCAT ROOMの
時間外に利用したい

「MUSCAT ROOM」が
ご利用頂けます

〈お問い合わせ先〉
医療人キャリアセンターMUSCAT
TEL: 086-235-6963
FAX: 086-235-6834
E-mail: muscat@md.okayama-u.ac.jp

「ポストメイト保育園
イオンモール岡山」が
ご利用いただけます

〈お問い合わせ先〉
岡山県医師会
TEL: 086-272-3225
FAX: 086-271-1572
E-mail: omajoi@icloud.com

■ 表紙の写真「尾張の路地裏にて」

撮影者 川崎医科大学 第4学年 写真部 鹿毛 千聡さん

編集後記

木々の紅葉も終わりを迎え、落ち葉の舞う季節になりました。岡山駅近くに大型商業施設イオンモールの開店をひかえ、急な衆議院選挙もあり何となく気ぜわしい毎日となりました。医学生の皆様、研修中の先生方はいかがお過ごしでしょうか？

毎年、秋に発行しますGood Doctorは地域医療をテーマにしています。岡山県の地域医療の要、岡山県地域医療支援センターの活動をセンター長の糸島達也先生に報告いただいています。また、地域医療に関係する二つの学会、日本医療マネジメント学会と日本プライマリ・ケア連合学会について、第16回日本医療マネジメント学会学術集会の報告記事を国立病院機構岡山市立金川病院 院長 大森信彦先生が寄稿くださいました。日本プライマリ・ケア

連合学会 男女共同参画委員会委員の村田亜紀子先生からは先生が地域医療とキャリア形成に関わられるようになったいきさつと委員会の活動状況の報告が届いています。

9月4日には川崎医科大学のご協力でDoctor's Career Café in OKAYAMA「メディカルカフェ in かわさき」を開催しました。女性医師を応援する制度は整ってきています。上手に利用して生き生きと働いてほしいと思います。来年1月15日には「メディカルカフェ in かわさき」の第2回が開催されます。是非、足をお運びください。

岡山県医師会では学会出席時の保育支援事業を大学でのセミナーや研修会にまで対象を広げ、岡山県女性医師キャリアセンター事業(MUSCATプロジェクト)と協働で託児支援事業を展開します。選択肢が増えました。利用しやすい支援事業をご利用ください。(神崎)